



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年8月4日

No. 4

『エンジョイロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成20年6月23日

卓話 『夢があるから強くなる』

日本サッカー協会 キャプテン

川淵 三郎 様



去年11月、オシム前監督が脳梗塞で倒れました。最初は絶望的でしたが、順天堂大学浦安病院の治療が結果的には最高の治療法だったようです。あとで院長さんから本人の治ろうとする気力、体力が奇跡的な回復に繋がったと伺いましたけれども、やはり病院の皆さんの献身的な看護が大きかったと思います。オシムがリハビリ病院に移って僕が行ったら、何日か前から練習したらしく、20歩ぐらい杖を使わずに歩いたんでびっくりしました。オシムはプライドが高くて杖を突いて歩くなて見せたくないという気持ちが、早く回復した一つの要素なのかなと思います。なんでオシムを替えたんだという多くのお手紙がありましたが、脳梗塞は再発する可能性が高いし心臓に持病があるので、ストレスのかかる代表の監督なんか絶対に無理なんです。だから逐一状況を説明しながらオシムの了解を得て決めたわけです。

オシムが倒れた後、彼しかないということで岡田監督が選ばれたわけですが、岡田監督にとっては最悪の条件です。オシムの考えて走れというサッカーが日本のファンに理解され始めていて皆がいいと思っているから、やり方を変えるにはある程度時間をかけなきゃならない。しかしその後のバーレーン戦での戦い方が最低で岡田監督はふっ切れた。帰ったとき、やはり自分なりのサッカーをやるとマスコミに言って、それでチームが変わっていったんです。今は選手も岡田色になりつつあり、岡田監督も厳しく選手に檄を飛ばしています。私はこれなら大丈夫だという印象を受けました。最終予選は今年の9月から来年6月までの長丁場です。その中でチームの問題点を解決するのは、やはり動きの量だと思います。動きの量を増やせば、このチームは伸び代が結構ある面白いチームだと思います。

僕らの時代のサッカーは高校選手権の準決勝、決勝だけ国立競技場で試合ができたんです。そこ

で試合をするのが夢で、負けると皆泣いたんですよ、夢が終わったということで。そこから大学に推薦で入って、そこそこの会社に入って日本サッカーリーグで試合できればいい。細々といこうというのが1980年です。それが1991年にJリーグができ、プロへの道が開けたことでサッカー界全体が無茶苦茶変わったんですね。Jリーグという夢の受け皿ができたことで子どもたちが今、サッカーを楽しんでくれている。その層を更に厚くして将来のすばらしい選手を作るために、我々は福島にJFAアカデミーというエリートの学校を作りました。毎年中学1年15人の選手を全国700～800人の中から選考しています。単にサッカーの有名選手を作るのではなく、人間的に社会性を持った素晴らしい子どもを育てることが大事だということで、田植えをさせたり稲刈りをしたり、普通の学校にはない教育をしています。超一流選手にはなれなくても、あの学校を出たお陰で社会人として立派に成長したと言えることが最低の条件ということで進めています。

サッカーは世界で一番盛んなスポーツです。中田英も今、いろんな活動をしていますけれども、例えばアフリカではワクチンがあるにもかかわらず、子どもも大人もワクチンを打ちたがらない。そのときサッカー選手がそこに行くと、子どもも親も山と集まる。そこでワクチンが非常に有効なんだというPRを是非やりたいって中田は言っていました。そういうことを考える選手がこれから出てくる。僕らも将来、そういうことで社会に貢献したいという気持ちを持ってやって行きたいと思います。

